

第6回国際成人教育会議（CONFINTEA）のための国内

「草の根会議」第4回会合議事録

2009/03/13 確定

開催日時 2009年3月9日（月）午後6時20分～8時

開催場所 法政大学（市ヶ谷）80年館 丸会議室

司会 荒井 記録 三宅（荒井 特にその後の動きを追記）

参加者：常葉-布施、寺尾、中藤、野元、荒井、平川、吉見、除村、三宅

1. CONFINTEA 本会議への参加について

（1）日本代表に市民社会組織からの代表を入れてもらう件について

- ・意見交換会設定の相談の連絡が政府関係者からあったときに、兼ねてから本「草の根会議」の政府への要望事項として確認されていた、政府代表枠にCSO代表を入れて欲し旨を伝えた。その結果、政府が想定している2名枠のうちの一つに入れられる可能性があるのでは、ノミネートしてほしい旨を伝えられた。特に研究者の肩書であれば入る可能性が大きいとのことだった。そこで会議で検討した結果、荒井容子をノミネートすることが合意された。ただし、ノミネートしても政府代表に入れるかどうかかわからないとのことだった。

（約束どおり、3月10日にeメールと電話で政府関係者の方に候補者を伝えたが、午後の会議でやはり、CSO関係者はたとえ研究者の肩書でも、政府代表枠には入れられないとのことだった。しかし、CSOの要望は、政府代表を通じて、会議に生かすという説明を間接的にいただいた。そこで、4月10日に予定されている、政府主催でCSOに声をかけてもたれる予定の事前会議で、また、本会議最中にも、政府代表に会議での討議・運営・合意づくりへに関わる発言・行動要請を行うこと、それを積極的に受けとめてもらえることを約束してもらったといえる。・・・荒井）

（2）市民社会組織からのオブザ-バ-参加について

- ・3月6日に荒井が送付したメールを参照のうえ、草の根会議参加団体は、団体ごとのリストを作成し、3月14日まで（厳守）に荒井までに送る。荒井がリストを作成し、16日に文部科学省に送付 UIL に送る。団体は多様性があつた方が良く想像されるので所属団体と大学等の所属も記載する方が望ましい。

（3月10日で政府関係者の方と電話で連絡をとった際、再度スケジュールを確認したところ、文科省を通じてUILに送付する関係で、文科省の事情から、参加希望者それぞれの連絡先も明記しておいてほしいとのことだった。そこで名前、所属、肩書、eメールアドレス以外に、連絡先（職場でも自宅でもどちらでも構わないと思う）の日本語と英語表記両方を書いたリストを、各団体で集めてほしい。追加項目については別途、追加メールを作成・送付する予定・・・荒井）

（3）代表団の数と首席代表

- ・日本の代表団の数が 2 名だと少ないので増やして欲しいということとハイレベルの人が首席代表になってほしい旨を文部科学省に伝える方策について検討することになった。

(3月10日、eメールでと電話で政府関係者に上記の件を伝えた。午後の会議で検討していただき、2名から3名に変更すること、また重要役職の方の配置を、検討してみるとのことだったが、実現するかどうかは未定。…荒井)

2. 文部科学省との意見交換について

- ・文部科学省より連絡があり、4月10日(金)10時から12時に文部科学省で草の根会議の間の意見交換会が開かれることになった。会場は前回と同じ。CSO レポートの内容に基づいて提言書を作成し、本会合での日本政府の対処方針についての意見を伝える。代表団の構成についてもハイレベルになるように願います。

(3月10日、政府関係者と電話で連絡をとった際に、CSO レポート以外に、本会議にむけて政府代表に期待することをまとめた「提言書」も提出する予定であることを伝えておいた。…荒井)

3. 市民社会組織 (CSOs) による日本レポート作成について

(1) 原稿収集状況、全体の構成

- ・全体構成はレジュメ参照のこと。追加として環境教育 (ESD-J)、夜間中学 (全国夜間中学研究会)、識字 (森さん) に執筆をお願いする。放送大学を各論に加筆。
- ・原稿が集まった段階で、構成、タイトル、執筆者の紹介方法は再度検討する。
- ・課題を提起するだけでなく、各節の終わりに **提言** (政策提言を重視しつつ、市民社会諸組織自身 [我々自身] への運動提言も入れる) を各自加筆することが合意された。

(3月9日の第4回会合では執筆フォーマットを事前につくらないとしたが、やはり後での編集作業軽減の必要もあり、以下のようにすることにした。

執筆フォーマット

1) 文体はで、「である」調。

2) 各論では「はじめに」はできるだけ設けない。各論のテーマでは、ここ10数年の変化を記述するまえに、テーマにそくした概説 (日本でのそれまでの概況等) の部分が必要かと思うが、それは「はじめに」という小見出しにはせず、別の見出しを設けてほしい。

3) 各論末尾に **提言** (政策提言を重視しつつ、市民社会諸組織自身 [我々自身] への運動提言も入れる) (上記にすでに記述されていること)

4) 各論の字数は、タイトル、図表すべて合わせて7000字前後。上限は10000字。

5) 小見出しの付け方

1 1.1 1.2 1.1.1 1.1.2

2 2.1 2.2 2.1.1 2.1.2 と、ナショナルレポートのガイドラインで採用されているものに合わせる。

6) 注はできるだけ少なくし、注内での記述も少なくする。

やむを得ずつける場合は、注の表記は、右上、小文字 (左記が例) 末尾表記と

する。(もし、この表記がむずかしい場合は、最もシンプルな形で、本文に小文字の数字をつけ、各論ごとに末尾にまとめる)。

各論で執筆者が別々に原稿を執筆する場合には、執筆者ごとに末尾に記述してもらい、後で、事務局の方で調整する。

7) フォントは全て、10.5ポイント、明朝体、英語はCentury体を基本とする。

小見出しの強調は改行等で行ってほしい。

小見出しのフォントは、特別の希望がない限り、事務局に一任してほしい。

余白 上下30mm、左右30mm

1ページの字数・行数 40字×40行。

・・・荒井)

(2) 既着原稿についての意見交換

全体を踏まえて、必要な修正がある場合、各自修正する。

原稿について以下のコメントがあった。

- ・ はじめに：政府報告書についての表現を和らげた方がよい。
- ・ 総論
 - 概念整理：成人に対する学校教育を入れるべき。日本での成人教育の概念が整理されていればよい。
 - 成人教育施策・実践の特徴：社会教育従事者の短期雇用=劣悪というわけではない。雇用の不安定さ、待遇の悪さが問題。
- ・ 各論
 - 社会教育職員：平川さんのお名前は削除する。
 - 健康教育：現在1,000字なので増やしてもらうように依頼する。
 - 開発教育：長すぎるので10,000字以内に減らす。青年・成人に対する教育にしぼってもらう。
 - 国際協力：長すぎるので10,000字以内に減らす。
- ・ 草の根会議メンバー団体の紹介の部を第3部として設けるので各団体は荒井に原稿提出締め切りまでに送付する。

(3月10日に日本社会教育学会国際交流委員会担当理事・幹事を中心とする会議で、3月9日配布原稿についての検討がなされ、よりよいレポート作成のための提案がいくつか出された。3月9日の第4回会合での意見と、この日本社会教育学会でき意見を踏まえて、再度、事務局の荒井の方で、構成・執筆者案をまとめたので、昨日までに収集された原稿とともに、別紙で「草の根会議」メンバーに送付する。

この修正案にもとづいて、原稿修正依頼、新たな原稿執筆依頼を行う。

この件で異論・修正意見がある場合には、全員返信メールで本「草の根会議」メンバーに送付してほしい。また、草稿についての同様の意見交換を時間的に可能な範囲で重ねたいので、是非、至急、各団体での昨日配布草稿・改めてまとめた草稿集を検討し、意見を全員返信メールで投函してほしい。・・・荒井)

(3) 今後のスケジュール

- ・ 参加団体による原稿最終締切 3月21日(土) 厳守、荒井さんへメール送付。~~フォーマットは現状のままでよい。~~
- ・ 荒井さんが編集して参加団体に送付 3月25日(水)
- ・ 参加団体は報告書案の意見聴取(承認)を行い、窓口担当者がとりまとめた上で荒井さんに連絡 締切:3月30日(月)
- ・ 荒井さんが最終調整して完成、入稿 4月上旬
- ・ 完成 4月8日頃
- ・ 文部科学省に提出、意見交換 4月10日(上述のとおり)

4. 今後の予定

第二回運営委員会を3月31日(火)17:00-19:00に法政大学(会議室は後日荒井さんが連絡)で開く。議題は、4月10日文部科学省との会合(提言書、進め方) 英訳(分担)の方法、期限、レポートの印刷・配布の方法、レポートの発表会(CONFINTIA 本会合前に開催予定)。

(第二回運営委員会 会場決まりました。

法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナ - ドタワ - 16 階 社会学部資料室内会議室です。・荒井)

5. その他

- ・ 野本さんよりベレム行きは、デルタ空港のダラス経由だとマナウスからベレムに行け、他のルートより早いとの情報提供があった。

以上